

台湾粉塵爆発事故における重度熱傷患者医療支援
に対する台湾政府からの感謝状贈呈について

平成 27 年 11 月 5 日 (木)
定例記者会見

台湾のテーマパークで本年 6 月 27 日に発生した粉塵爆発事故により、多くの若者が重度の熱傷被害を受け、日本から寄贈された人工皮膚や、医療用品等を用いた治療に際して日本の専門の医師の協力が求められました。

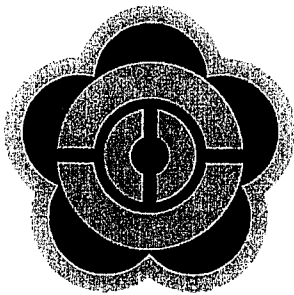
日本医師会は、台湾医師会等による緊急医療支援の要請を受け、日本集中治療医学会・日本救急医学会・日本熱傷学会の三学会による熱傷治療の専門家 6 名を日本医師会「三学会合同熱傷診療支援医師団」として、7 月 12 日 (日) ~15 日 (水) の日程で派遣しました。

活動内容は、既に下記の記者会見において報告をさせていただいておりますのでご参照ください。

- 7 月 15 日 iJMAT 構想に基づく、台湾における爆発事故による重度熱傷被害者への緊急医療支援について
- 8 月 5 日 台湾医師会との iJMAT 協定書調印式出席 (報告) について
- 9 月 9 日 台湾粉塵爆発事故における「日本医師会 三学会合同熱傷診療支援医師団」の活動報告について
- 10 月 28 日 台湾における爆発事故による重度熱傷患者に対する医療支援活動への支援金について

この度、こうした本会の医療支援活動に対しまして、台湾立法院外交国防委員会から感謝状が贈呈されましたのでご報告いたします。

以上



感謝狀

感謝台日醫師協助
八仙塵爆病患醫療救助

此致

日本醫師會

立法院外交及國防委員會

陳唐山

黃偉哲

中華民國104年10月12日

6日本醫師來了 提供燒燙傷復修

另有2台灣醫師將返國

【記者林惠琴／台北報導】支援八仙塵爆的六名日本醫師昨抵台，將提供燒燙傷專業諮詢與意見交流，預定訪視三總、新光、振興、林口長庚、台北國泰等醫院；另有二名畢業於台北醫學大學、在美國執業的台灣外科醫師，也將於七月底陸續返台加入救治團隊，兩人因有台灣醫師執照將可實際執刀。

六名日本醫師由名古屋大學教授松田直之領軍，另有橫濱市立大學副教授春成伸之、帝京大學副教授池田弘人、慶應大學講師佐佐木淳一與名古屋大學助教日下琢雅、川崎醫科大學助教山田祥子，專長急救、重症、

燒傷、感染醫學與整形外科，推前到全場因發炎、敗血症、皮膚移植、燒燙傷創傷處理等提供諮詢與意見交流，預定七月十五日離台。

昨至衛福部拜訪的日本醫療團隊低調未露，隨行的中華民國醫師公會全國聯合會秘書長蔡明忠表示，台灣醫師將傷患情況穩定到一定程度，發揮非常好水準，日本醫師大力肯定，日本各家醫院菁英將著重於與醫院探討病例，交流可行療法。

269人在加護病房 243人病危

衛福部政次林姿延指出，一發現於美國執業的外科醫師返台將協助清創等手術，

八仙塵爆中，共有八人死傷，其中一人傷重不治，其餘五人死於傷後感染。平均傷者傷面面積約四傷面積大於四平方公尺，面對嚴重傷者，醫療團隊正全力搶救中，目前傷者家屬多感焦慮，衛福部正積極提供心理支持，以利保持平穩心情。

中華民國醫師公會全國聯合會秘書長蔡明忠表示，目前傷者家屬多感焦慮，衛福部正積極提供心理支持，以利保持平穩心情。

慶慶捐款會

受書表



Portal of
Republic of China (Taiwan)
Diplomatic Missions

Embassies and Missions Abroad

News

Activities

About Taiwan

Taiwan Today

Periodicals

Pictures

Video

Search Keywords

Go

Advanced

台湾ニュース

Path: [Home](#) → [最新情報](#) → [台湾ニュース](#)

[Share](#)

[Print](#)

[Back](#)

日本医師会による台湾の粉塵爆発事故負傷者治療の支援に衛生福利部が感謝を表明

Post Date: 2015/7/17

日本医師会による台湾の粉塵爆発事故負傷者治療の支援に衛生福利部が感謝を表明

台湾北部の新北市で発生した「八仙水上樂園」粉塵爆発事故により火傷の負傷者が多数出たことから、台湾の医療支援NGOの「台湾路竹会」および中華民国医師公会全国聯合会の協力の下、日本の対外医療支援NGO「特定非営利活動法人 AMDA(アムダ)」および日本医師会が共同推薦した6名の重傷医学の分野および火傷治療を専門とする教授ら6名が7月12日午後、台湾に到着した。6名は翌日より3日間集中して、三軍総医院(病院)、新光医院、振興医院、林口長庚記念医院、国泰綜合医院など同事故の火傷患者を収容している重点医療病院を訪れ、専門的な医療交流を行った。

この度の日本医師団の団長で、救急の重症医療を専門とする松田直之教授は、同事故の火傷収容患者に対する台湾の各病院の処置が適切であり、台湾の医療レベルが高いと評価の意を示した。

6名は台湾での滞在期間中、収容している火傷患者の全体的な治療方法、火傷後の感染および肺部の感染の対応について、全面的な理解を図ると共に、各病院の担当医師チームと、火傷面積が大きい重度の患者に対する実際の治療状況および使用している医療技術などについて、双方は意見交換や経験を分かち合った。日本医師会のメンバーは、「火傷患者の治療費はきわめて高額であり、長くかかる。政府の支援とリソースがなければ、治療を続けるのはむずかしいであろう」との考えを示した。

衛生福利部は、日本医師団のメンバー各位が来台されたことに深い感謝の意を表すものである。団長の松田教授は帰国に際し、台湾の各病院と専門的な交流ができたことに謝意を示すと共に、台湾の重傷医療に対する印象が深く、今後も関連するテーマについて末永い交流をしていきたいと期待した。

【衛生福利部 2015年7月15日】

[Accessibility](#) [Privacy Policy](#)

Best viewed at 1024 x 768 resolution.

Copyright © 2012 Ministry of Foreign Affairs, Republic of China (Taiwan)